



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第13号

発行日 2010年7月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp

編集代表者 宮原 義幸



会長就任に当って

佐賀大学同窓会会長 宮島 豊秀

この度、久間会長の任期満了に伴う役員改選の理事会決定に従い、佐賀大学同窓会会長の大役をお承けいたしました。

浅学微力、とてもその器にあらずと固辞しましたが、副会長さんをはじめ役員の方々のご協力を仰ぎながら会の運営に当って参りたいと思います。同窓会の在り方や活性化、課題の対応には様々なご意見があろうかと思いますが、基本的に大切なことは、問題の先を常に見通しながら、積極的に自由に意見を出し合い決定事項の処理には責任をもってこれに当ることだと考えます。会員の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

さて、母校佐賀大学は法人化後6年目を迎え、様々な改革が進行しています。長谷川前学長の下、大学憲章の制定、第1期中期目標、中期計画の策定と実施、中長期ビジョンの策定がなされました。

佛淵新学長は、これを受けて「地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して」というスローガンの下、率先して県内外へ働きかけておられます。

今、大学は学術研究はもとより、特色のある講座の開講や就職に強い学生、即戦力として活躍できる社会人の育成を目指しております。

キャリア（人生の設計）教育として、高い評価を受けている「キャリアデザイン（自分発見）講座」を平成17年度から実施していますが、300人収容の大講義室が満杯になるほどの好評で、本年度も取り組むことにしています。

同窓会が、大学の目標にいささかでも寄与していくためには、なんとと言っても「同窓生」という人材を十分に生かすことが必要で、同窓生の人的ネットワークを更に確固たるものとし、同窓会本部と各地の会員の皆様との連携を常に密にすることが重要なことだと考えています。

当面、本同窓会は、同窓会報「楠の葉」の発行、全国各地の支部総会への積極的参加、大学当局と同窓会との意見交換会の実施などを通して、情報の交換・発信に努めることにしています。

最後に皆様のご指導・ご鞭撻とご協力・ご支援をお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

平成22年度春期定例役員会

新役員と事業計画、予算を決定

平成22年度春期定例役員会を4月14日(水)、佐賀大学「菱の実会館」で開催し、平成21年度事業報告・決算報告と平成22年度事業計画・予算案を承認した。

なお、同窓会会則について有朋会会則の改正に伴う一部改正案が可決された。

また役員改選については久間善郎氏(文理)が会長職を退任、新会長に宮島豊秀氏(教育)が就任されることとなった。

I. 平成21年度事業報告

1. 会報発行事業

「楠の葉」11、12号発行。また、佐賀大学広報「かちがらす」15、16、17号を会員の皆さんに送付

2. 事業活動

1) 支部総会等への参加

会長はじめ各学部同窓会から出席

2) 佐賀大学との意見交換会

大学から学長はじめ11名、同窓会から会長はじめ12名が出席

3) 単位提供講座への支援

「キャリアデザイン講座」に同窓生の講師推薦紹介等実施

4) 就職支援

就職内定者との意見交換、今後の就職支援活動のための情報収集

5) 第17回佐賀県青春寮歌祭への参加

同窓生35名が参加、佐賀大学混声合唱団も応援参加

6) 開学祭支援事業

医学部の開学祭および本庄キャンパス開学祭準備に資金援助

7) 懇話会〔クリエイティブ21〕

第29回～30回例会を開催

8) 佐賀大学校友会への支援

校友会会費納入

II. 平成22年度事業計画

平成21年度事業の継続と充実を図る。

III. 平成21年度決算および22年度予算(概要)

【単位：千円】

科目	21予算	21決算	22予算
収入の部			
前年度繰越金	8,598	8,598	11,614
収納金	17,200	17,635	16,777
雑収入	10	6	5
合計	25,808	26,239	28,396
支出の部			
運営費	4,700	4,144	4,800
業務・活動費	13,030	10,481	12,950
予備費	8,078	0	5,646
繰越金		11,614	5,000
合計	25,808	26,239	28,396



平成22年度 佐賀大学同窓会役員名簿



平成22年7月1日現在

役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科	役職	担当	氏名	卒業年学科
会長		宮島 豊秀	教育・35小	理事	広報	磯野 健一	理工・62工化	理事	庶務	穂屋下 茂	理工・49機
副会長		宮尾 正隆	教育・36美	〃	広報	光富 勝	農学・51農	〃	庶務	白武 義治	農学・51農
〃		梅崎 正道	文理・37経	〃	広報	吉賀 豊司	農学・H2園	〃	情報	今野 厚子	教育・51中
〃		江村 正	医学・62医	〃	資料	江口 信義	教育・36中	〃	情報	加藤 明	医学・63医
〃		田中 正和	理工・48化	〃	資料	百武 英明	文理・41経	〃	情報	渡邊 健次	理工・62物
〃		金丸 安隆	農学・43農	〃	資料	古島 智恵	医学・H11看	〃	情報	寺山 康教	理工・H1機
理事長		光岡 正登	文理・34経	〃	資料	深井 澄夫	理工・53電子	〃	情報	田中 宗浩	農学・H4生
副理事長		井上正一郎	教育・38中	〃	資料	緒方 和裕	農学・55農	〃	懇話会	小池 政雄	文理・34英
〃		佐藤 武	医学・59医	〃	会計	成富 宏	教育・38美	〃	事務局長	瀬戸口 悟	教育・44小
〃		秋永 正幸	理工・45機	〃	会計	石丸 新	文理・44法	監事		大庭 敏伸	教育・36中
〃		有馬 進	農学・52農	〃	会計	野出 孝一	医学・63医	〃		青山 祐二	文理・42経
理事	広報	前村 晃	教育・45美	〃	会計	椿 忠彦	理工・53物	〃		松藤 彩	医学・H16看
〃	広報	宮原 義幸	文理・42法	〃	会計	杉町 信幸	農学・51農	〃		中島 道夫	理工・47化
〃	広報	江口 邦子	経済・52経	〃	庶務	中村 隆敏	教育・61美	〃		松尾 正紀	農学・43農
〃	広報	枝國源一郎	医学・H3医	〃	庶務	長 安六	文理・44経	顧問		関本 優	文理・31経
〃	広報	池上 康之	理工・61生機	〃	庶務	土肥佐和子	医学・H9看	〃		久間 善郎	文理・37法

佐賀大学と佐賀大学同窓会との 意見交換会

定例の佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会が4月28日(水)、ホテルニューオータニ佐賀において開催された。

大学側からは佛淵新学長はじめ理事（副学長）、監事、事務局長及び各学部長（含代理）等、計12名、同窓会側からは宮島新会長、久間前会長、理事長、副理事長及び理事等、計13名が出席し、進行は光岡理事長によって行われた。

はじめに宮島会長の挨拶があり、本同窓会の会員数が49,306名を数えるに至ったこと、実施事業である「キャリアデザイン講座」や「クリエイティブ21」の活動状況やその他の事業について説明があり、今後とも充実をしていきたいとのコメントがあった。

次いで久間前会長からの退任挨拶があった後、佛淵学長からは、佐賀大学発展のため全力を尽す所存であり、特に地域に貢献する大学として実際に地域（市町、企業等）を廻り、意見交換等を実施している。第2期中期計画実施については「研究」から「教育」の方面へ重点が傾斜していく方向である。また校舎等の基盤整備にも積極的に力を入れていきたい。今後とも同窓会との連携を大切にしたいとの挨拶があった。その後、大学側出席者による学部等の活動状況や課題等の説明が行われた。

その中での主な内容としては以下のとおりであった。

- ハード基盤の整備について、本庄キャンパスは徐々に改善されつつあるが、鍋島（医）キャンパスについては今後の病院改修等について大きな課題を有すること。
- 地域密着型の事業としては有明海環境関連の低平地沿岸サポートセンターを発足させたい。
- 国際交流関連としては、ベトナム・ハノイに海外サテライトセンターを発足させる。将来的には中国、韓国にも設置できればと考えている。

また、各学部間の連携については、大学院レベルでの「医・理・工」連携や、農学部と経済学部との連携等の動静について説明があった。

同窓会側からは就職活動と4年間の教育内容との関係や、美術館設置検討等についての質疑、意見表明があった。

終わりにあたり、久間前会長から、全ては佐賀大学のためにという気持ちでお互いに頑張りましょうとの発言があり、宮島会長からは、本日の意見交換会を契機として今後はさらに豊かな人脈や経験をとおして大学と同窓会相互の交流と協力関係を深めていきましょと挨拶があり、2時間を超える意見交換会は閉会した。



有朋会と文教同窓会一本化へ

有朋会の名称は存続

「有朋会」と「佐賀大学同窓会」は、双方の役員が合議を重ねた結果、平成22年度より組織を統合して一本化することになりました。

一本化の理由には、会員の減少に伴う会費の減収、最近の卒業生のほとんどが教職以外であること、一本化による組織の活性化の必要性があること、同窓会の組織上は佐賀大学の卒業生ではない師範学校卒業生を特別会員とし、佐賀大学卒業生のみを正会員

とすることで有朋会が佐賀大学同窓会の構成員としてみなされるといったことなどがありました。

上記の線に沿って会則の改正などを加えた結果、新しい「有朋会」は問題なく佐賀大学同窓会に組み入れられました。

なお、これまでの行事、会報、名簿、支援事業などで重要な事柄は今後もそのまま継承されます。また、特別会員は会費は無料となります。

同窓生の新教員紹介

文教教員に新しい同窓生が加わりましたので、自己紹介をお願いします。



氏名 堤 公一（つつみ・こういち）

所属 教科教育講座（体育分野） 講師

◆略歴◆

平成8年 佐賀大学大学院教育学研究科修了

平成10年 九州龍谷短期大学保育学科に採用

平成22年 佐賀大学文化教育学部採用

佐賀県保健体育研究会体育学習研究部会理事、佐賀県レクリエーション協会理事、佐賀県教育委員会子どもの体力向上支援委員会副委員長などをつとめる。

◆主要業績◆

- ・著書 宇土正彦監修『幼児の健康と運動遊び』保育出版社 平成11年
- ・著書 高内正子編著『子どものこころとからだを育てる保育内容「健康」』保育出版社 平成20年
- ・作品（振り付け）サガテレビかちかちワイド『ミランバくん体操』平成22年
- ・講師 佐賀県幼稚園教諭実技指導者研修会

◆抱負◆

小学校教員になることを目指し、大分より縁もゆかりもない佐賀の地に出てきた大学1年の春。それから、ちょうど20年後の今年4月、ご縁があって母校に教員として戻ってきました。この愛してやまない佐賀大学で教育者・研究者としてチャレンジできる喜びとともに、次世代の教育界を担う教員を育てていくことの責任の大きさをヒシヒシと感じております。どうかこれまで以上に、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

ワーキング・グループ 「組織再生と同窓会のあり方」(仮称)会議 ～中間報告～

近年、楠葉同窓会及び佐賀大学同窓会の県内・県外支部の組織的機能や活動の低下が著しい。そこで、楠葉同窓会では、役員の中に、ワーキング・グループ「組織再生と同窓会のあり方」(仮称)会議を立ち上げ、昨年8月から議論を深めてきた。

委員は、光岡正登(副会長)、小池政雄(副会長)、百武英明(副会長)、川原昭彦(理事・組織担当)、長安六(理事・総務担当)、青山祐二(監事)の6名で構成した。

これまで6回の会議を開催して、問題点について検討を行っており、今後、あと2～3回の全体会議を経て、ワーキング・グループ「提言」として報告することとしている。

以下に、これまでの検討状況を「中間報告」として報告する。

●第1回(平成21年8月3日)

楠葉同窓会の抱える問題点やこの会議で何を議論するのか、「討論の柱」などについて話し合い、以下について議論することを決めた。

- ①総会・懇親会のあり方、②支部組織の強化、③名簿管理と発行、④会報の発行、⑤世代交代、⑥佐賀大学や佐賀大学同窓会との関係

●第2回「佐賀大学や佐賀大学同窓会との関係」について(平成21年10月21日)

・県庁や市役所、佐賀銀行などの地元企業の経済学部生の採用が減少している。経済学部はもっと学生を鍛えて、職場や地域社会でリーダーになれる知力と行動力を身に付けた学生を送り出してほしい。

●第3回「支部組織の強化」(平成21年12月14日)

・最近支部の組織的機能の低下が著しい。楠葉同窓会の支部は、全国に29あるが、平成21年度総会参加は17である。活動を休止している支部は12。全学同窓会という形で活動している支部が多く、学部同窓会支部との整理が必要である。

●第4回「名簿と会報」(平成22年1月22日)

・名簿の発行は必要であるが、部数、記載内容、発行周期、基本データの管理等については、今後担当部会、理事会等で議論の必要がある。
・会報については、大学が「かちがらす」、全学同窓会が「楠の葉」を発行しており、「なんよう」発行の意義が薄くなっている。全学同窓会会報との一本化が必要ではないか。

●第5回「総会と懇親会」(平成22年2月15日)

・総会及び懇親会の開催を7年前に恒例の7月末から5月末に繰り上げたが、職場の異動時期と重なり、実行委員会の組織作りや取り組みが十分にできない。参加者も近年は70～80名程度に低迷している。
各支部で実施されているように、地元佐賀でも、懇親会は全学同窓会で開催するよう、提案すべきではないか。

●第6回「世代交代」(平成22年3月18日)

・同窓生の数は経済学部卒業生が多数となり、経済学部OB主導の楠葉同窓会の運営が求められている。執行体制の若返り、世代交代を行い、先輩方とうまく協力してやっていくことが必要ではないか。



佐賀大学病院卒後臨床研修センターのホームページ 『先輩からのメッセージ』より

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会長

佐賀大学医学部附属病院卒後臨床研修センター 副センター長 江村 正 (医4期)



2年間の臨床研修を義務付けた、医師臨床研修制度が、平成16年度から始まって、7年目を迎えました。この4月より、いわゆる“7期生”が研修を開始したわけです。佐賀大学病院は、“就職”という観点で言うと、佐賀大学医学部同窓生の、最初の、そして最大の就職先となります。

佐賀大学病院卒後臨床研修センターのホームページでは、「先輩からのメッセージ」と称し、毎年、研修中の研修医から、医学生に向けてのメッセージを発信しています。その中から、いくつかを選んでご紹介します。

「指導して下さる先生が多いことが、研修先を選ぶ基準になっていたと思います。国家試験に通ってすぐの、何もない卵時代にいいものにいっぱい触れることが、自分にとって重要と考えたからです。実際に、カンファレンス(著者

注：患者さんの診断・治療方針に関してグループで討論すること)に参加することで、一つの考えに囚われない柔軟な考えを取り入れることができ、また自分の受け持ちではない患者さんについてもその治療法など学ぶことができました。」

「当大学の魅力は何といてもタテ・ヨコの繋がりを作りやすいことです。どの科に進んでも他科に相談することが非常に多く、相談しやすい先生がいるということはとても心強いです。同期の研修医も30名以上おり、綺麗な研修センターで愚痴を言い合えます。特に1年目の経験を共有することはとても心に残りますし、2年目の研修医にすぐ何でも質問できます。」

超多忙な研修生活ではありますが、多くの仲間にも囲まれ、充実した研修生活を送ってくれていることと思います。



(左：研修医向けのセミナー、右：卒後臨床研修センターでの昼食風景)

卒業生へのメッセージ

11



大学院工学系研究科博士前期課程知能情報システム学専攻 専攻長 新井 康平

情報科学科、知能情報システム学科の卒業生の皆さん、ご健勝のこととお慶びを申し上げます。私の所属をご覧になってお気づきのことと思いますが、所属および職名が変更になりました。これまで理工学部知能情報システム学科に所属していた教員は平成22年度から大学院工学系研究科に所属し、博士前期課程では知能情報システム学専攻、後期課程ではシステム創成科学専攻・電子情報システム学コース・知能情報システム学部門に所属することになったのです。皆さんのご卒業になった知能情報システム学科（情報科学科）は当然現存し、教員は学科勤務も担当しています。すなわち、部局化です。中央教育審議会答申にある大学院重点化、すなわち、大学院に軸足を置いた組織になりました。

さて、当学科も22歳になり、大学を卒業する年になりました。私事で恐縮ですが、私は日本宇宙少年団武雄分団（佐賀唯一の分団）の分団長を11年勤め、青少年が「科学する心」を育成しています。その分団に入団したお子さんの保護者が当学科の卒業生であったことに驚きました。1992年に初代の卒業生を送り出しているのです。その卒業生は40歳になっています。「親子2代の教え子」も当然なわけです。皆さんの学科は成長し続け、今年からは大学院に進学です。教育では全国で2番目に情報分野における日本技術者教育認定機構（JABEE）認定を受け、研究では世界で活躍する学科となり、国際交流、社会貢献を進展させ、大学組織運営に貢献する学科となりました。皆さんと同じく、優等生ですね。何年か前の

卒業生に謝恩会の席上申し上げましたが、「知能情報システム学科が素晴らしいから卒業生が素晴らしいのではなく、卒業生の皆さんが社会で目覚ましい活躍をしているから知能情報システム学科が素晴らしい。」のです。佐賀大学のためにも社会においてご活躍ください。

近代大学の形式はボローニャおよびパリにおいて形成されたと言われます。前者は教員が学生を集めて教育する形式であり、カレッジに近い形態です。後者は学生が教員を探して教を乞う形態であり、ユニバーシティです。大学における学部講義は専門分野のひな型を提示しているに過ぎなく、それに興味を覚えた学生が当該教員を選んでさらに教を乞い、専門書で学ぶものと心得ています。大学は、「パリ大学方式・ユニバーシティ」であるべきと思っています。私も大学以外の職場（研究所や宇宙開発事業団）での経験を有していますが、社会にでてからも同様であると思っています。「与えられた業務、職場環境において自己研鑽の心を忘れず、ご教示願えそうな人と出会い学び、本からも学ぶことを心掛けるべき」としています。そして、「彼／彼女は素晴らしい活躍をしているな。出身はどこだ？なに、佐賀大学か。なるほど佐賀大学は素晴らしい。」となることを望んでいます。皆さんの佐賀大学においてもソルボンヌ（パリ）宣言からボローニャ宣言を見据え、そしてベルリンコミュニケにおける国際基準に基づく質保証をシステム化し、素晴らしい大学たらんと自己研鑽しています。

理工学部同窓会総会開催のお知らせ

来る平成22年9月4日(土)に理工学部同窓会総会を開催いたします。

日時：平成22年9月4日(土)16:00～

場所：佐賀大学「菱の実会館」

<http://dousou.ext.saga-u.ac.jp/rikou/info.html>

出席の際は、氏名、学科名、卒業年度を同窓会事務局までお知らせください。

パワーアップする 海浜台地生物環境研究センター

佐賀大学農学部教授 有馬 進 (昭和52年卒)

海浜台地生物環境研究センターは、農学部主導で平成5年に開設され、18歳となりました。この間、学士、修士、博士を100名近く輩出しました。同センターは、唐津の観光スポット「虹ノ松原」と「鏡山」の傍で、かつ研究対象地域にも近いという絶好のロケーションにあります。本庄キャンパスから1時間以上の遠隔地ですが、ここで卒論や修論の研究にじっくり取り組んだ卒業生は、皆逞しく、国内外で大いに活躍しています。

同センターは、作物栽培・農業土木・農政経済・水産化学の4研究分野の教員が在籍し、主に唐津・上場や玄界灘地域を対象とした農水産業の振興と環境保全に関わる研究を推進しています。本年度の研究課題の一部は、タバコ高品質栽培と土砂流出防止、上場地域の水質保全、「虹ノ松原」の再生保全、離島の耕作放棄地再生、磯焼けとウニ食害の関係、などです。同センターは、これまで少人数で孤軍奮闘してきまし

たが、来年度からは研究効率を高めるために、農学部や他研究組織と協働するセンター・システムに改変する予定です。パワーアップした新センターをご紹介する日が待たれるところです。

同センターの田中 明先生には、本年3月に退職されて名誉教授になられました。また、5月に「環境大臣表彰」を受賞されました。田中先生が長年に亘り地道に取り組まれてきた「虹ノ松原」の研究ならびに、地域住民・行政・研究機関を一体とさせた松原の保全再生活動の指導に対する受賞です。心からお祝いを申し上げます。田中先生は現在、センターの特別研究員として在籍されておりますので、今後ますますのご活躍を期待しております。

最後に、同センターの礎を築かれ発展に尽力された芝山秀次郎先生には、本年4月にご逝去されました。享年72歳の早い旅立ちでした。心からご冥福をお祈りいたします。



環境大臣表彰の受賞を学長に報告
右から佛淵学長、田中先生、有馬センター長

同窓生の職場 ⑬

佐賀大学理工学部

本年度、佐賀大学理工学部は体制が大きく変わりました。これまでは学部に軸足をおいていましたが、大学院に軸足をおいた組織に変更されました。私の所属も、これまでの理工学部機能物質化学科から工学系研究科循環物質化学専攻へと変更になりました。当然、学部としての機能物質化学科は存在しています。

新しい工学系研究科の博士前期課程は、8つの専攻からなります。それは数理科学専攻、物理科学専攻、知能情報システム学専攻、循環物質化学専攻、機械システム工学専攻、電気電子工学専攻、都市工学専攻、先端融合工学専攻です。従来の専攻のうち、機能物質化学専攻、循環物質工学専攻、生体機能システム制御工学専攻から、新たに循環物質科学専攻と先端融合工学専攻が生まれました。博士後期課程においても、これまでの3専攻から1つの専攻に生まれ変わっています。

私は卒業が1988年、修了が1990年になります。その後理工学部に採用していただき、今日に至っておりますが、今回は4度目の大きな体制変化と感じております。1つめは1997年の学部改組、次は2001年の工学系研究科改組、その次が2004年の独立法人化、そして今回の改組です。私の卒業した工業化学科や工業化学専攻は機能物質化学科として一緒になった旧化学科とともに、改組のたびに名前や体制を変更しながら、理工学部あるいは

工学系研究科の発展に大きな貢献をしているという自負があります。

しかしながら、時代が移るにつれ昔のおおらかな教育というものが出来なくなり、学生も教員も窮屈なおもいをしている実感があります。教育現場としてはそれが当たり前なのかもしれませんが、時々昔を懐かしく思います。卒業生の方々、同じ思いをしている先生がいらっしゃるかもしれませんので、機会があれば各学科（各専攻？）、各先生方を訪ねていただき、昔話に花を咲かせてください。ついでにいろいろと変わっている大学を見ていただき、ご意見などもいただければと思います。（本来執筆を企業の方などにお願ひすべきですが、理工学部が大きく生まれ変わったことをお知らせいたしたく、今回は私が執筆させていただきました。）

磯野 健一（理工学部 昭和63年卒）



支部だより

鹿児島支部総会・懇親会

平成22年1月30日(土)、鹿児島市内のホテル「レクストン鹿児島」において、鹿児島支部の総会及び懇親会が開催された。

本部から久間佐賀大学同窓会会長をはじめ、6名の方々のご参加をいただき、県内各地から駆けつけた支部会員16名（うち女性3名）の出席のもと、初めての参加者もあり、再会を喜び語り、楽しい集いとなりました。

恒例により、久間会長から本部を代表して、佐賀大学や大学同窓会の近況報告をうかがい、出席者一同、母校を取り巻く教育環境の発展の姿に想いを馳



せるとともに、今後の母校の発展に更なる期待を寄せております。

懇親会の席では、出席者それぞれが学生時代の思い出や、人生の喜怒哀楽を含めた自己紹介と近況の報告を行い、酒盃を交わしながら歓談し、少人数を忘れるかのような賑やかな、有意義な懇談会となり、さらに恒例により二次会へと足が進みました。

支部長 上田 耕平（文理・39年卒）

恩 師 情 報 ……この一年

平成21年7月～22年6月までの動向を掲載します（敬称略）

定年退職（平成22年）

松尾正幸	文化教育学部教授
朱雀成子	文化教育学部教授
木村靖夫	文化教育学部教授
生馬寛信	文化教育学部教授
飯塚正朝	経済学部教授
山部長兵衛	理工学部教授
田代洋丞	農学部教授
田中明	海浜台地生物環境研究センター教授
林重徳	低平地研究センター教授
浅岡高子	留学生センター教授

訃報 謹んでご冥福をお祈ります。

城秀男	元教育学部名誉教授 平成22年1月22日
濱内繁義	元経済学部名誉教授 平成21年8月30日
樋渡正美	元理工学部名誉教授 平成22年2月10日
芝山秀次郎	元海浜台地生物環境研究センター名誉教授 平成22年4月12日

第18回佐賀県青春寮歌祭のご案内

・日時 平成22年11月20日(土)

13:00～17:00

・場所 佐賀市交流センター「エスプラッツホール」3階

会員の参加をお待ちしています。

参加希望の方は、佐賀大学同窓会事務局までご連絡下さい。

大学及び同窓会の動き

H22.1.1	佐大同窓会会報「楠の葉」No.12 発行	3.24	佐賀大学平成21年度学位記授与式
13	単位提供講座キャリアデザイン ／講師 水田 和彦 氏（農学部）	4.6	佐賀大学平成22年度入学式
20	単位提供講座キャリアデザイン ／講師 神崎 夕紀 氏（農学部）	7	佐大同窓会「第1回代表役員会」
21	佐賀大学校友会「代議委員会」	14	佐大同窓会「春期定例役員会」
27	単位提供講座キャリアデザイン／総括	27	佐大同窓会 会長・副会長会議
30	鹿児島支部総会・懇親会 ／ホテル レクストン鹿児島	28	「佐賀大学と佐賀大学同窓会との意見交換会」 ／ニューオータニ佐賀
2.5	佐賀大学各学部後援会との打合せ会 ／佐賀大学「菱の実会館」	5.11	佐大同窓会会報「楠の葉」No.13 編集会議
10	佐大同窓会「第8回代表役員会」	28	第31回「クリエイティブ21」 ／佐賀大学理事・副学長 米倉 茂 氏
		6.9	佐大同窓会「第2回代表役員会」

★ ご意見メール等募集 ★

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受付けております。